

水源の里 草壁

A to Z

水源の里草壁AtoZ

発行日：2024年3月31日

文・写真：京都産業大学現代社会学部 滋野ゼミ
内田 麻衣 / 大槻 隼也 / 小野 雅治 / 高木 洸弥
中村 衣里 / 真栄田 義仙 / 三上 紗夢

デザイン：武井 みき(まちのデザイン手伝い隊)

協力：水源の里草壁
滋野 浩毅(京都産業大学現代社会学部教授)

写真提供：水源の里草壁

発行

あやべ水源の里連絡協議会



MESSAGE

「水源の里・草壁 AtoZ」は草壁の皆様と綾部市職員の皆様方のご協力により完成しました。お忙しい中、私たちのためにご協力いただいたことを、この場を借りてお礼申し上げます。

草壁は、綾部市中心部から自動車ですら30分程で行くことのできる小さな集落で、自然豊かな場所です。一見、どこにでもある集落のように思えますが、誰を祀っているのか分からない神社があったり、平家の落ち武者が作ったと伝えられる隠し田があったり、おばあちゃんが作った昔ながらの梅干しが作られていたりする、個性豊かな集落です。

緑豊かで空気がおいしく、都会の人が日常の疲れを癒すのにぴったりの場所です。最後までお読みいただくと幸いです。



ABOUT

草壁集落の中心部には西へ向かって約1kmの草壁川が流れています。また、田んぼの畦道には64本もの梅の木が植樹されています。梅ぼりを通じた都市農村交流が盛んで、おらかな人たちが暮らしている場所です。

水源の里 草壁
人口30人17世帯
高齢化率70%

(2023年4月現在)



春 梅の花がほころぶと春の訪れ。田起こした田んぼから土の匂いただよう春の風景。

秋 黄金色の稲穂を揺らす風が心地よく、豊作の祝福を感じさせる秋の風景。

夏 青々と広がる田園風景と、川で遊ぶ子どもたちのほほ笑む夏の風景。

冬 雪がつくり出す見渡す限りの銀世界、冬の静寂と太陽の輝きが儚く美しくする冬の風景。

Contents

A Aijo
愛情

B ume-Bori
梅ぼり

C Cooking
料理

D Doubutsu
動物

E Iju
移住

F Festival
お祭り

G Guesthouse
ゲストハウス

H Hotaru
ホタル

I Ibo-mizu
いぼ水

J Jinja
神社

K Kakushida
隠し田

L Lounge
ラウンジ

M Mystery
ミステリー

N Nature
自然

O Osako
おおさこ

P People
人々

Q Quiet
静けさ

R Rekishi
歴史

S Star
星

T Tambo
田んぼ

U Ume
梅

V View
眺め

W Waterfall
滝

X eXchange
交流

Y Yama-no-mizu
山の水

Z Zizou
地蔵



愛情
村は山間部で多くの不便がありますが、それに負けないほどの愛情を持った住民たちの手により、魅力あふれる地域になっています。丁寧に育てられてきた特産の梅、イボを治すと語り継がれている池の民話、大切に思われてきた山々、何より住民たちに愛されてきた、手入れの行き届いた美しい田んぼがあります。

梅ぼり
「梅ぼり」とは京都府北部の方言で、梅狩りのことです。年に数回、梅ぼり体験と交流会が行われます。1年で採れる梅の量は約400kg。この梅たちの多くは加工され、彩菜館やあやべ特産館で販売されるほか、直接販売されることもあります。余った梅は梅ジャムや梅ジュースにして、住民たちに配られたりもします。

料理
それぞれの家庭では、収穫した梅をジャムやジュース、シロップなどさまざまなものに加工し、食されています。これらは作る人により、作業工程や分量に違いがあり、細かな味の違いを楽しむことができます。



Doubutsu



Iju



Festival



Guesthouse



Hotaru



Ibo-mizu

草壁は、まるで“天然の動物園”とも呼べる場所です。ここでは、都会では目にすることのできない珍しい生き物たちが多く見られ、コウノトリといった貴重な鳥も飛来します。サルやシカなども田畑に現れることがあります。住民たちは電気柵の設置などの対策を行っています。このように、草壁に多くの動物たちがいるのは、水がきれいだからだそうです。

動物

移住してきた人たちは、草壁にさまざまな魅力を感じ、素晴らしい場所だと言っています。また、一度草壁を離れた人たちも、故郷に戻ることが多いようです。特に、仕事が一段落した時や親が高齢になった時に帰郷するケースが多いとのこと。草壁にある魅力と、人々の中に息づく絆が、故郷である草壁に戻ることを選ばせるのでしょう。

移住

夏は五穀豊穡を願い、秋は豊作を祝って、住民たちは神社を飾ってお参りし、みんなで食事をするお祭りが催され神様を祀ります。お祭りでは、草壁の住民たちが、神聖な空気と美味しい食事を楽しみながら、神様への感謝の気持ちを表し、豊かな生活を祈ります。この祭りを通して地域の結束を深めるなど、伝統と共に生活しています。

お祭り

志摩機械株式会社が、奥上林地区の地域活性化の取り組みとして、2棟の空き家を宿泊施設に再生しました。「美田」は美しい田園に囲まれ四季折々の風景が特徴的な宿で、「梅香」は草壁地域の特産である梅をモチーフにした装飾がある落ち着きのある古民家です。

ゲストハウス

6月頃になると、無数のホタルが飛び交います。特に草壁川に生息するホタルの光が多く集まると、まるで銀河のように見えます。ホタルの光と夜空に広がる満天の星空で、草壁の夜は幻想的な世界となります。

ホタル

新宮神社にある小さな池は、年中絶えることがないとされる清水が湧き出ています。その水には「つけるとイボやできもんが治る」という言い伝えがあります。それがいつしか崇められるようになり、実際に治った人がいるとか…。

いぼ水



Jinja

村の中心に位置する新宮神社。草壁では「お新宮さん」の愛称で親しまれています。境内には、あたり一面に緑色のコケが広がり、一步足を踏み入るとじゅうたんのようにフカフカです。コケの表面に日が差すと神秘的な光景を見ることができます。

神社



Kakushida

草壁には“殿さまの隠し田”と呼ばれる田んぼがあります。江戸時代、重い年貢を避けるために槇の滝近くの山奥に隠して作られた水田のことで、年貢の対象になりませんでした。今も当時、田んぼに荷物を運ぶ際に使った馬の蹄の跡等を見ることができます。

隠し田



Lounge

草壁公民館（ラウンジ）では、住民同士の交流が行われています。また、都市住民との交流の場になったり、地域の方が集まってミニ文化祭が開催されたり。草壁の特産品である梅の実の加工場でもあり、住民にとって、なくてはならない場所です。

ラウンジ



Mystery

草壁には、住民たちもよく知らないさまざまなミステリーがあります。そのうちの一つが小さな古墳。新宮神社の参道から見ることができません。この古墳は日下部皇子（くさかべおうじ）のものだという言い伝えがあります。古墳の形は、仁徳天皇陵を真似て作られたような形跡ですが、方墳か円墳なのかなど、詳しいことはわかっていないのもミステリー…。

ミステリー



Nature

季節ごとに移り変わる色とりどりの自然の表情が、私たちの心を和ませてくれます。特に夕焼けは美しく、広がる空に温かな色彩が描かれます。秋になると、新宮神社周辺に栗の実が落ち、秋の訪れを感じさせます。これらの自然環境は、草壁の住民たちにとって大きな誇りとなっています。

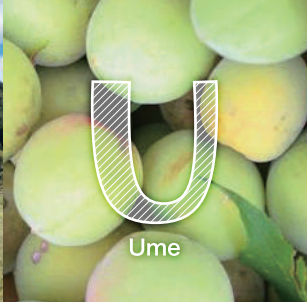
自然



Osako

集落から望む、堂々とそびえ立つ山は草壁のシンボル。みんなはこの山を「おおさこ」と呼んでいて、草壁を象徴する風景の一つになっています。昭和初頭までは、かやぶき屋根に必要なカヤを「おおさこ」で刈っていました。集落の住民たちの生活にも関係の深い「おおさこ」です。

おおさこ



人口30人の小さな集落にもいろいろな人たちがいます。例えば、リーダーシップを発揮して、集落を盛り上げようとしている人、草壁の美しい田んぼを守ろうと活動している人、特産の梅干しを作っている人…。集落がこれからも続くよう積極的に、活動している人たちがたくさんいます。

人々

草壁は山間部に位置する小さな集落です。道を通る車も都会と比べてとても少ないため、動物や虫の鳴き声を楽しむことができます。この静けさだからこそ、よく眠れる方もいらっしゃるようです。都会では体感のできない体験ができる自然豊かな集落です。

静けさ

草壁の始まりは、奈良時代中ごろ、「日下部(くさかべ)一族」が棲みつたのが始まりとされています。当初の地名は「日下部」でしたが、時代とともに「日下部」が「草賀部」になり、今の「草壁」へと至ります。諸説ありますが、「日下部」という地名は朝廷によって与えられた名前のようにです。

歴史

山間部に位置する草壁は、空がとても澄んでおり、灯りも少ないので、満天の星空を見ることができます。夜空に煌めく星々は、訪れた人達の日々の喧騒を忘れさせてくれます。見える星座が変わる季節ごとに訪れると、新しい発見が待っていることでしょう。

星

草壁を訪れると、まず美しい田んぼが目に入ります。草壁に暮らす人たちは田んぼを大切にしています。年6回ほど、休耕田も含めて草刈りを行うなど、きれいに手入れをしています。こうした取り組みによって、美しい景観が守られています。

田んぼ

今では、草壁といえば梅のイメージがありますが、その始まりは、1996(平成8)年に農道ができるタイミングで、景観を良くするために梅の木を植えたことでした。2012(平成24)年、水源の里の指定を受けたタイミングで、梅の実を梅干しにして商品化されました。草壁の梅干しは、昔ながらの塩辛い田舎漬けとして人気があり、あやべ温泉やあやべ特産館などで販売されています。

梅



View



Waterfall



eXchange



Yama-no-mizu



Zizou



こぼれ
ばなし

新宮神社から遠くを眺めると、広がる田畑と優雅に連なる山々が広がります。また近くに目をやると、集落の民家と透き通った川の流れが穏やかな雰囲気を醸し出しています。自然の恵みと安らぎを味わえる草壁の地は、時間が経つのを忘れさせるほど贅沢な風景です。

眺め

草壁には「大岩の滝」「槇の滝」と呼ばれる滝があります。「大岩の滝」は非常に落差があり、流れ落ちる白い筋がとても美しいです。「槇の滝」は非常に迫力があり、大きな滝壺ができています。かつては、この滝壺で泳いでいた人もいたそうです。

滝

草壁では、梅ぼり体験を通じて地元の小中学校や大阪、京都といった都市部の人たちと交流を行なっています。昔は餅つきで交流をしていました。交流会では、特産品である梅を使った食事会も行われます。開催される際にはぜひ参加してみてください。

交流

草壁には山から流れてくる非常にきれいな水があります。主に田んぼの水に利用されており、この水がおいしい草壁のお米を育てています。この水は、農業用水のみならず、飲み水など生活用水としても利用されています。昔はこの水を利用して山中でワサビを作っていたそうです。

山の水

草壁には、山の安全を祈願する北向き地蔵が各地に置かれています。また、新宮神社付近には、産まれて早くに亡くなった赤ちゃんを弔うための子安地蔵が約20体祀られています。地蔵には手縫いのよだれかけが着せられており、住民たちによって定期的に取り替えられているようです。

地蔵

草壁の人たちは日常の買い物はどのようにしているのでしょうか？車で中心市街地まで行く、あるいは移動販売やインターネット通販を使う、とのことです。また、畑で採れた野菜などを、住民同士で交換しあうこともあるそうです。

草壁の現代買物事情

草壁住民からの コメント

稲子 和夫 水源の里・草壁 代表

水源の里を思う時、昔のにぎわいをいかにして取り戻すか、私達80代の者の一つ屋根の下で囲炉裏を囲んで三世代共に生活していた。根ぎにつけ悪しきにつけ、たがいの思いやりの精神を胸に、人と人との絆を深めていくことの大切さを次世代に伝えていきたいと念じている。

丸山 恵則 草壁公民館主事

冬、全面真っ白い雪で包まれました。村を囲む山の尾根の木の尾根の樹の枝の先まで真白となって、上空晴れ渡ると青空とのコントラストがとても綺麗です。春になるとその山も里も白から緑に、秋になると山は赤く里は黄金色に染まって行くのです・・・子供の頃から・・・永遠に・・・

野々垣 眞哉 水源の里・草壁 副代表

AtoZは全部とか全てのこととかの意味ですが、今回は学生さん目線で作成いただきました。草壁には、他にも季節・天気・時間等でこの冊子のほかに新しい発見があるかも・・・ぜひ探しに来てください。

木村 誠治 水源の里・草壁 会計

草壁地区は、自然環境もすばらしく それ以外に自慢出来る事は、他の地区に比べベター組が近年4世帯と増えて楽しかった事これも友に手を取り合って暮らしていこうと、迎える人達の意識の高さの現れだと思います。迫力あふれる草壁目指して一緒に過ごしてみませんか!毎年6月にはホテルも待っています。

斉藤 末好 草壁自治会長

決して“住めば都”ではない。近くにスーパー、コンビニ、病院は無い。何かにつけて不便は当たりまえ。人より獣が多い。大雪の年もあります。そんな村で楽しみを見つけられたら最高な所です。1度、足を運んでみてはどうでしょう。

野々垣 ミサオ 水源の里・草壁

梅部会に参加している一人です。女性同士が仲間作りを通して力を合せて来ましたが、高齢化で後継者不足も深刻です。自然豊かなこの地で梅に興味のある方は是非おいで下さい。多数の方に参加いただき頑張りすぎずに楽しみ乍ら心豊かに活動出来たらと願っているひとりです。

野々垣 絹枝 水源の里・草壁

先人の方のお陰で梅の木が育ち、自然の恵みを受けて大梅・小梅が実をつけ収穫や加工の共同作業として、地域の「活性」と「和」になっています。昔ながらの土用干しで、しっとりした梅干が出来上り、販売先のお客様に喜んでいただき、有難く思っています。草壁へ一度お越しください。

滋野ゼミからの コメント



滋野 浩毅 京都産業大学 教授

古屋方面から山を降りてくると突然視界が開ける場所が草壁、という認識はこれまでもありましたが、地名の由来、古くから伝わるお話、滝や古墳など、今回、より“深い”草壁に触れる機会となりました。そして、訪問時にいただいた梅の甘酸っぱさは、草壁の皆さんの想いの詰まった、何よりの清涼剤でした。

内田 真衣

今回の活動の中で、地域の方々に様々なお話を聞かせていただいたり、草壁の地を歩き回ったりすることを通して、草壁の素敵なお話をたくさん見つけることが出来たと思います。この冊子を通して、少しでも多くの方に草壁の魅力が伝われば嬉しいです。

大槻 隼也

草壁の皆様との交流や視察を通して、私もいろんなことを学ばせていただきました。このAtoZは草壁の皆様のお話が詰まった、魅力的な冊子です。読者の皆様にも草壁の良さが伝わるような冊子になっていればいいなと思います。

小野 雅治

草壁を通る大きな川や草壁を囲む山、良く手入れされた田んぼなどがつくりだす、密度の高い美しさが好きです。風情ある景色とそこで暮らす皆様の温かさが、草壁に安らぎの雰囲気をもたらしていました。私たちの取り組みで、草壁の魅力が遠くにも広がることを願います。

高木 洸弥

初めて草壁を訪れた際にいただいた梅料理が甘くて非常に美味しかったことが印象に残っています。皆さんも実際に草壁を訪れて梅料理を食べてみてください。

中村 衣里

豊かな自然、草壁の皆さまの温かな人柄、訪れる度に強く感じました。また、地域や都市との交流を大切にするなど、住民の方々の厚い思いを感じました。この冊子を通して、1人でも多くの方に草壁の魅力を知っていただき、訪れるきっかけになればと思います。

真栄田 義仙

初めてこのような活動に触れて様々なことを学びました。経験が浅く至らない点も多くなりましたが住民の方々やゼミの仲間たちに支えられ良いものにできたと思います。ぜひ楽しんで読んでもらえると幸いです。

三上 紗夢

数ある冊子の中から、草壁AtoZを手にとって頂きありがとうございます。草壁AtoZ作成を経て、実際に現地を訪れることでしか得られない、新たな発見があることに気づきました。ぜひ足を運んで、草壁の風土を肌で感じてみてください。